
町民アンケート調査結果

(1) 保護者・教職員及び一般町民のアンケート調査結果

【目的】

全国的な少子化が進展する中であって、六戸町においても、児童・生徒数が減少し、将来的に複式学級が想定される学校もあります。その一方で、児童数が増加している学校もあります。また、一部の学校では校舎等が老朽化し、施設・設備の劣化が進んでいる状況にあります。

このような状況の中、次世代を担う子どもたちの学び合う機会が平等となるとともに最適な学習環境となるよう、六戸町として望ましい教育環境を確保・充実することは喫緊の課題と考えます。

そのため、教育委員会では、「六戸町立小・中学校適正規模・適正配置等検討委員会」を令和2年9月29日に立ち上げ、子どもたちにとって望ましい教育環境を確保・充実させる方策等について審議を行うことといたしました。

このアンケート調査は、本検討委員会による審議の参考とするため、町民及び小・中学生の保護者、教職員の皆様を対象に実施しました。

【調査の方法】

- ①調査地域 六戸町全域
- ②調査対象 町内に住所を有する20歳以上の方
- ③対象者数 一般の方954人 保護者及び教職員950人
- ④抽出方法 一般の方は住民基本台帳から無作為抽出、保護者は小学生及び中学生のいる世帯、教職員は町内小・中学校に勤務している方
- ⑤調査方法 一般の方は、郵送等による無記名アンケート調査
保護者及び教職員は、学校連絡網サービスシステムによる調査
- ⑥調査期間 令和2年10月5日～10月16日

【調査内容】

- 年齢、居住地区、同居する子ども
- 望ましい学校規模（1学年あたりの学級数・人数）とその理由
- 児童数減少による学校の小規模化に対する今後の対応（学校再編方法）
- 小・中学生の通学距離、小・中学校の通学区域変更の留意点
- 学校に期待すること

【回答率】

- 一般の方 配布数954票、回答数525票、回答率55.0%
- 保護者及び教職員 配布数950票、回答数779票、回答率82.0%

【回答者のうち同居している子どもの割合】

- 未就学児同居 218票（13.2%）
- 小学生同居 624票（38.0%）
- 中学生同居 301票（18.3%）
- 同居していない 501票（30.5%）

問 1 六戸町の小学校における望ましい学校規模、学級人数について

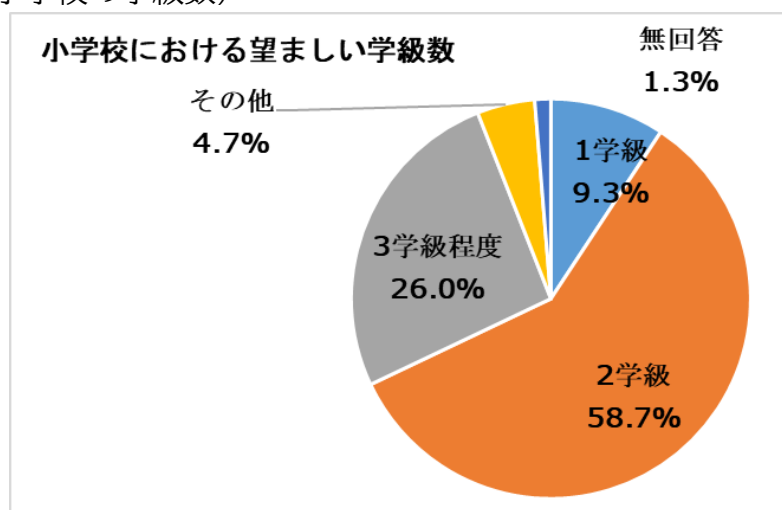
小学校における望ましい学校規模、学級人数について、それぞれにあてはまるものに 1 つ〇をつけてください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

公立小中学校の適正規模について（学校教育法施行規則第 41 条）

小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により、特別の事情のあるときは、この限りでない。

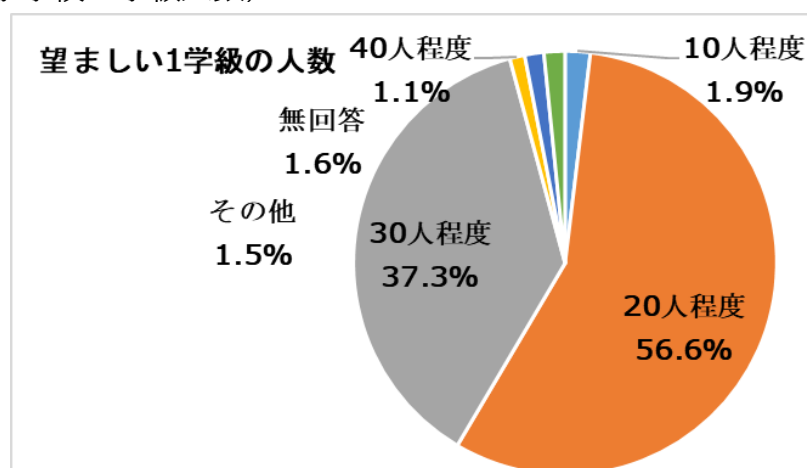
同規則第 79 条[準用規定]により、中学校についても、この規定を準用するため、同一の定義となる。

(小学校の学級数)



小学校における望ましい 1 学年の学級数は「2 学級」が 58.7% と半数を超え、続いて「3 学級程度」が 26.0% となっています。この結果によれば「2 学級以上が望ましい」と考えている方が圧倒的に多いことがわかります。

(小学校の学級人数)

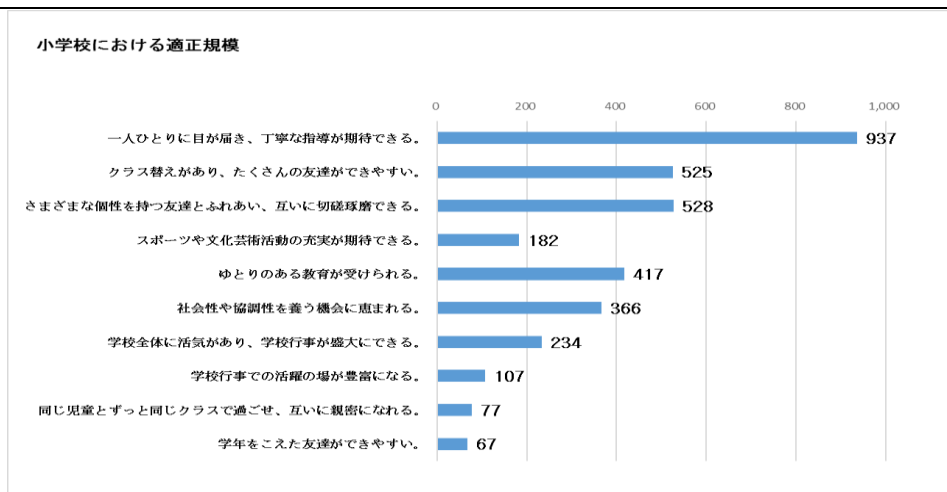


小学校における望ましい 1 学級の児童数は、「20 人程度」が 56.6% で最も多く、次いで「30 人程度」が 37.3% となっています。これによれば、「20 人～30 人規模の学級が望ましい」と考えている方が多いことがわかります。

問 2 問 1 で選んだ項目の理由について

問 1 で選んだ項目から、そう思われる理由について、あなたの考えに近いものを 3 つまで選択してください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

- (1) 一人ひとりに目が届き、丁寧な指導が期待できる。(全体 27.0%)
- (2) クラス替えがあり、たくさんの友達ができやすい。(全体 15.2%)
- (3) さまざまな個性を持つ友達とふれあい、互いに切磋琢磨できる。(全体 15.2%)
- (4) スポーツや文化芸術活動の充実が期待できる。(全体 5.3%)
- (5) ゆとりのある教育が受けられる。(全体 12.0%)
- (6) 社会性や協調性を養う機会に恵まれる。(全体 10.6%)
- (7) 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる。(全体 6.8%)
- (8) 学校行事での活躍の場が豊富になる。(全体 3.1%)
- (9) 同じ児童とずっと同じクラスで過ごせ、互いに親密になれる。(全体 2.2%)
- (10) 学年をこえた友達ができやすい。(全体 1.9%)
- (11) その他 (全体 0.7%)



小学校における望ましい学校規模については、「クラス替えがあり、たくさんの友達ができやすい」が 15.2%、「さまざまな個性を持つ友達とふれあい、互いに切磋琢磨できる」が 15.2%、「スポーツや文化芸術活動の充実が期待できる」が 5.3%、「社会性や協調性を養う機会に恵まれる」が 10.6%、「学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる」が 6.8%。これらを合わせると 53.1%と半数を超えています。これらを選択した人は、問 1 で 1 学年の望ましい学級数を 2 学級又は 3 学級とした人がほとんどです。

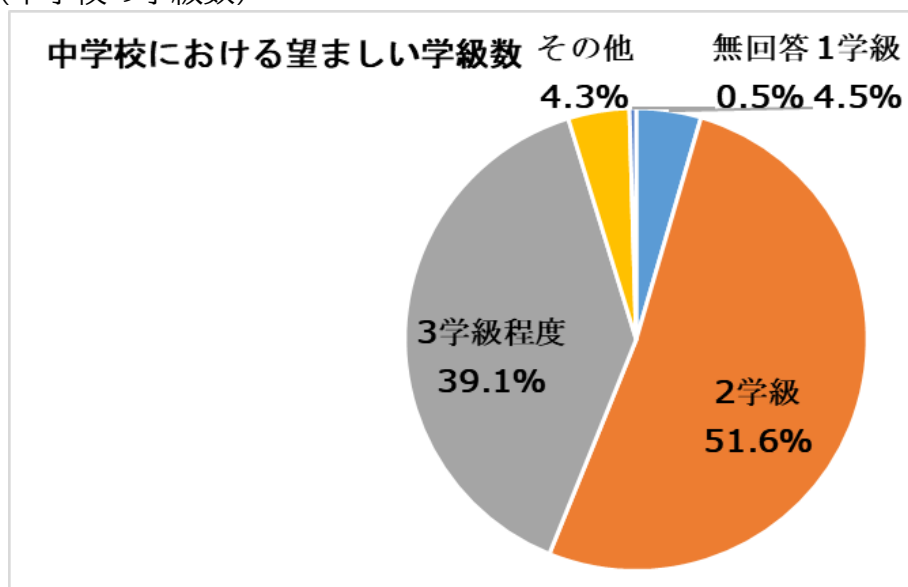
また、「一人一人に目が届き、丁寧な指導が期待できる」が 27.0%、「ゆとりある教育が受けられる」が 12.0%で、合わせて 40.0%と比較的高い割合を示しています。これは問 1 で 1 学級の望ましい人数を 20 人程度又は 30 人程度と回答した人達です。

その他として、小中一貫教育を見据えたものや新型コロナウイルス感染症対策を考慮した学級人数を望む意見もありました。

問3 六戸町の中学校における望ましい学校規模、学級人数について

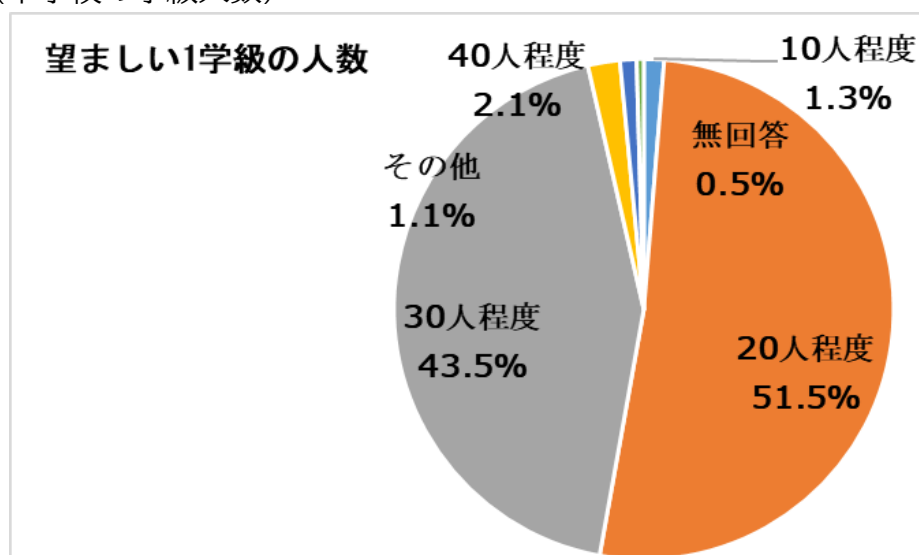
中学校における望ましい学校規模、学級人数について、それぞれにあてはまるものに1つ○をつけてください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

(中学校の学級数)



中学校における望ましい1学年の学級数は「2学級」が51.6%と半数を超え、続いて「3学級程度」が39.1%となっています。こうした結果、「2学級以上が望ましい」と考えている方が圧倒的に多いことがわかります。

(中学校の学級人数)

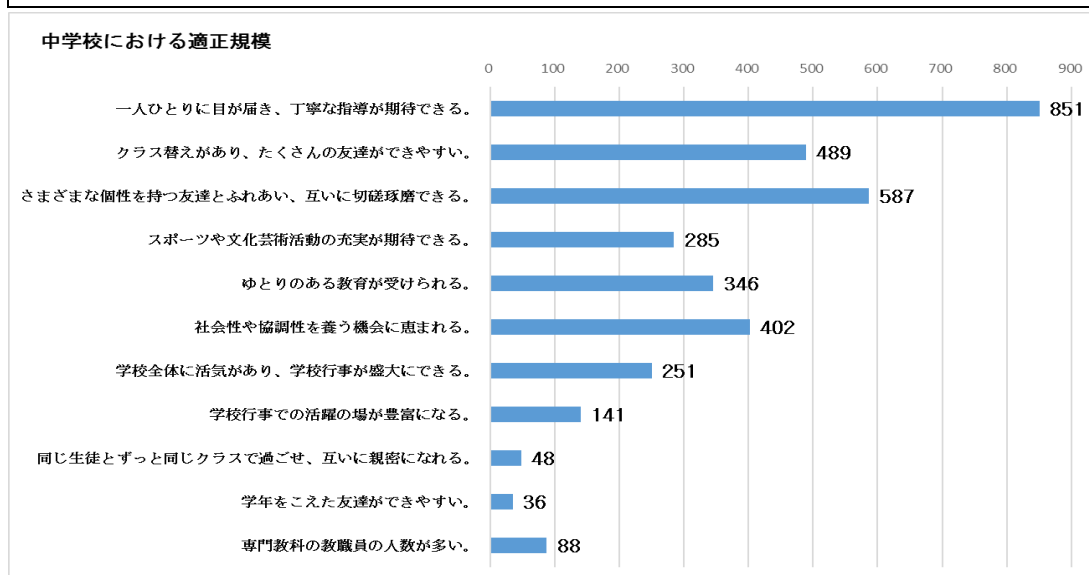


中学校における望ましい1学級の生徒数は、「20人程度」が51.5%で最も多く、次いで「30人程度」が43.5%となっています。この結果からすれば、「20人～30人規模の学級が望ましい」と考えていることがわかります。

問4 問3で選んだ項目の理由について

問3で選んだ項目から、そう思われる理由について、あなたの考えに近いものを3つまで選択してください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

- (1) 一人ひとりに目が届き、丁寧な指導が期待できる。(全体 24.0%)
- (2) クラス替えがあり、たくさんの友達ができやすい。(全体 13.8%)
- (3) さまざまな個性を持つ友達とふれあい、互いに切磋琢磨できる。(全体 16.6%)
- (4) スポーツや文化芸術活動の充実が期待できる。(全体 8.1%)
- (5) ゆとりのある教育が受けられる。(全体 9.8%)
- (6) 社会性や協調性を養う機会に恵まれる。(全体 11.4%)
- (7) 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる。(全体 7.1%)
- (8) 学校行事での活躍の場が豊富になる。(全体 4.0%)
- (9) 同じ生徒とずっと同じクラスで過ごせ、互いに親密になれる。(全体 1.4%)
- (10) 学年をこえた友達ができやすい。(全体 1.0%)
- (11) 専門教科の教職員の人数が多い。(全体 2.5%)
- (12) その他 (全体 0.4%)



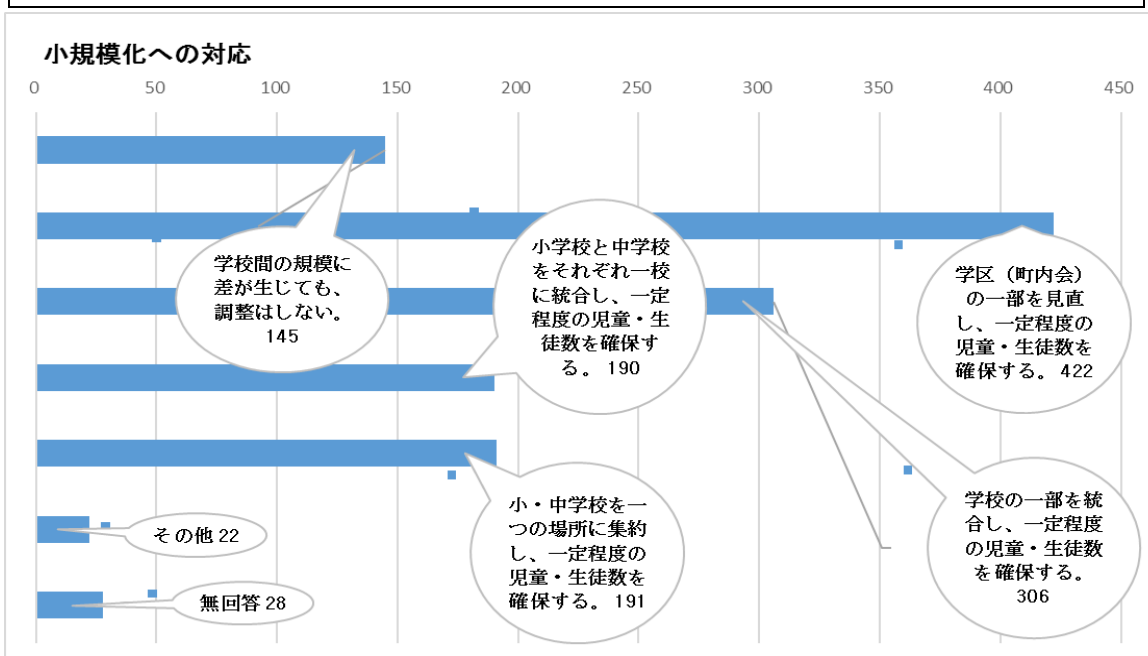
中学校における望ましい学校規模については、小学校と同様に、「クラス替えがあり、たくさんの友達ができやすい」が 13.8%、「さまざまな個性を持つ友達とふれあい、互いに切磋琢磨できる」が 16.6%、「スポーツや文化芸術活動の充実が期待できる」が 8.1%、「社会性や協調性を養う機会に恵まれる」が 11.4%、「学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる」が 7.1%で、これらを合わせると 57.0%と半数を超えています。これは問3で1学年の望ましい学級数を2学級又は3学級とした人がほとんどです。また、「一人ひとりに目が届き、丁寧な指導が期待できる」が 24.0%、「ゆとりのある教育が受けられる」が 9.8%で、これらを合わせると 33.8%と比較的高い割合を示しています。これは問3で1学級の望ましい人数を20人程度または30人程度と回答した人達です。

全体として、学校規模については、小規模より一定程度の規模を望んでおり、その傾向は小学校より顕著であるといえます。

問 5 児童・生徒数減少による学校の小規模化に対する今後の対応について

児童・生徒数の減少により、学級の人数が減少することが予想されますが、その際の六戸町の学校の再編について、あなたの考えに一番近いものに1つ○をつけてください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

- (1) 学校間の規模に差が生じても、調整はしない。(全体 11.1%)
- (2) 学区(町内会)の一部を見直し、一定程度の児童・生徒数を確保する。(全体 32.4%)
- (3) 学校の一部を統合し、一定程度の児童・生徒数を確保する。(全体 23.5%)
- (4) 小学校と中学校をそれぞれ一校に統合し、一定程度の児童・生徒数を確保する。(全体 14.6%)
- (5) 小・中学校を一つの場所に集約し、一定程度の児童・生徒数を確保する。(全体 14.6%)
- (6) その他、無回答(全体 3.8%)



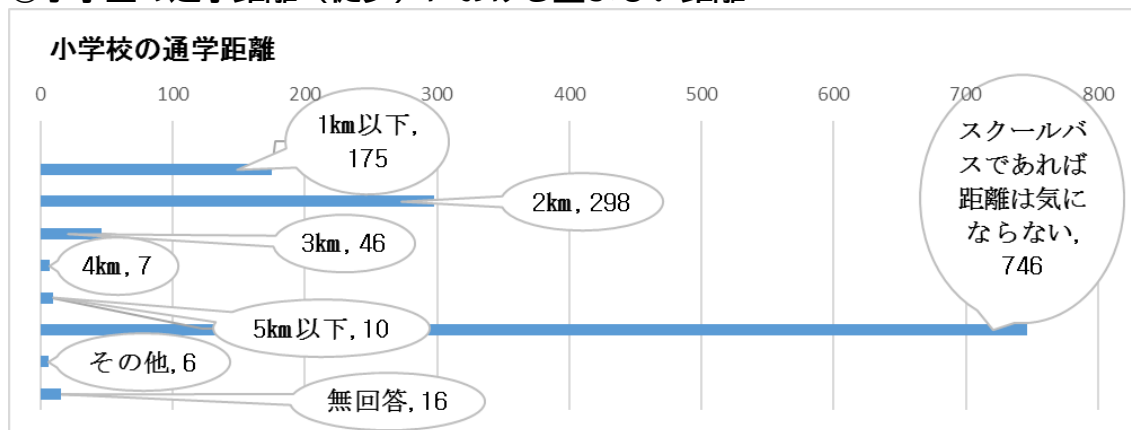
学校の再編については、「学校間の規模に差が生じても、調整はしない」が11.1%であり、「現状のままで」に近い考え方の人の割合は1割程度に止まります。一方で「学区(町内会)の一部を見直し、一定程度の児童・生徒数を確保する」「学校の一部を統合し、一定程度の児童・生徒数を確保する」「小学校と中学校をそれぞれ一校に統合し、一定程度の児童・生徒数を確保する」「小・中学校を一つの場所に集約し、一定程度の児童・生徒数を確保する」を合わせると85.1%であり、具体的な方法はいずれにしても、現状のままではなく、一定規模の学校への再編を望む意見が8割を超えています。

この傾向は、問1～問4の結果と一致します。また、「学校の一部を統合し、一定程度の児童・生徒数を確保する」「小学校と中学校をそれぞれ一校に統合し、一定程度の児童・生徒数を確保する」「小・中学校を一つの場所に集約し、一定程度の児童・生徒数を確保する」を合わせると52.7%であり、現存の学校を統合する意見が半数を超えています。

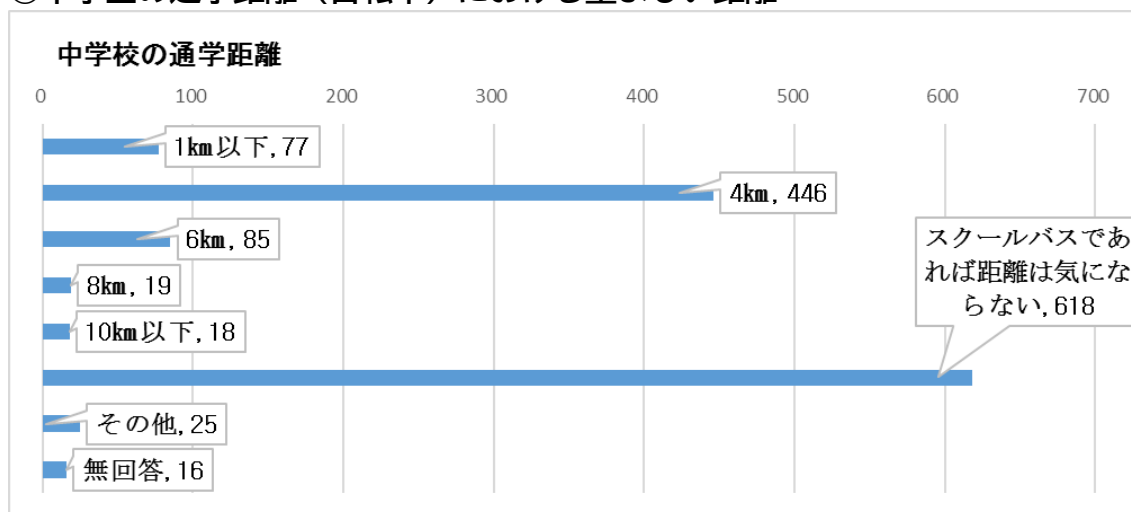
問 6 小・中学生の通学距離について

小・中学生が通学する距離としては、どの位がふさわしいと思いますか。小学校と中学校のそれぞれあてはまる場所に 1 つ〇をつけてください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

①小学生の通学距離（徒歩）における望ましい距離



②中学生の通学距離（自転車）における望ましい距離



小・中学校の通学距離については、小学校では 2 km以内が 22.9%と徒歩で通学できる距離を望んでおり、中学校では 4 km以内が 34.2%と徒歩及び自転車で通学できる距離を望んでいることが読み取れます。

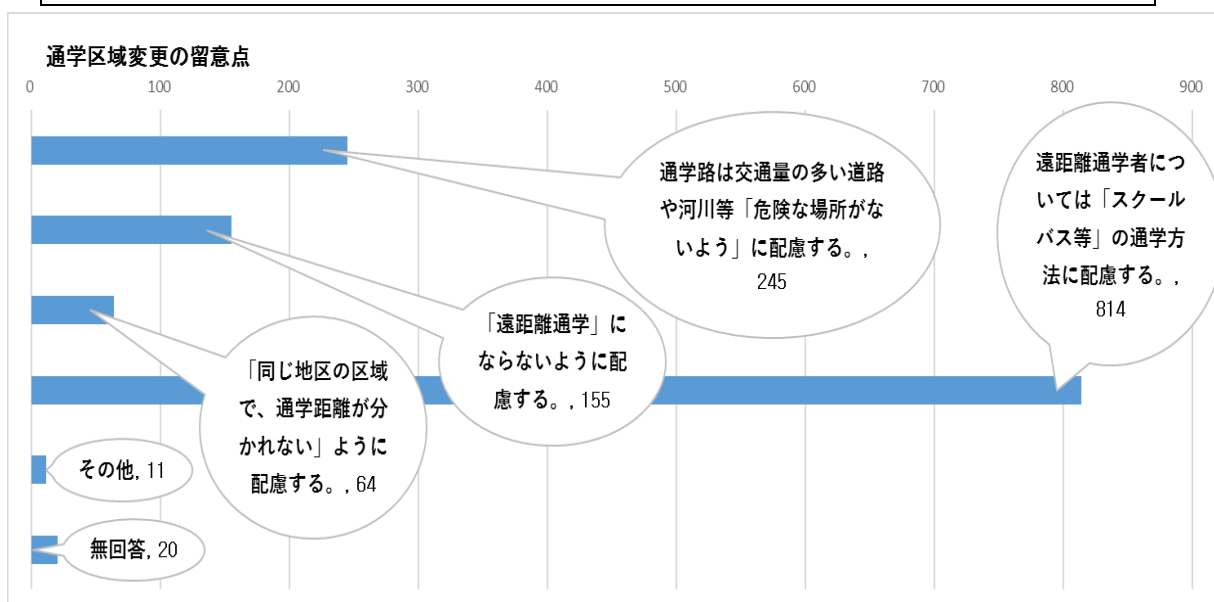
このような中であって、小・中学校とも「スクールバスであれば距離は気にならない」の意見が際立っています。さらにグラフでは示していないが、北地区の小・中学校で「スクールバス」での登下校を望む意見が多くあります。

また、六戸町では現在、小学生については学校の近隣地域（おおむね 1 km以内）を除き、全域スクールバスで送迎しているが、中学生については、スクールバスを運行していません。そのため、今後は、学校の配置を検討する条件として、最優先に考慮することが必要です。

問 7 小・中学校の通学区域変更の留意点について

小・中学校の通学区域を変更する場合に、どのようなことに配慮すべきだと思いますか。あなたの考え方に1つ○をつけてください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

- (1) 通学路は交通量の多い道路や河川等「危険な場所がないよう」に配慮する。
(全体 18.7%)
- (2) 「遠距離通学」にならないように配慮する。(全体 11.8%)
- (3) 「同じ地区の区域で、通学距離が分かれないう」ように配慮する。
(全体 4.9%)
- (4) 遠距離通学者については、「スクールバス等」の通学方法に配慮する。
(全体 62.2%)
- (5) その他、無回答 (全体 2.3%)



通学区域の変更の際に配慮すべきこととして、「遠距離通学者については、『スクールバス等』の通学方法に配慮する。」が62.2%と大半を占めています。

次いで、「通学路は交通量の多い道路や河川等『危険な場所がないよう』に配慮する。」が18.7%あり、安全を確保し、通学環境の整備や通学時の見守り体制の強化が求められています。

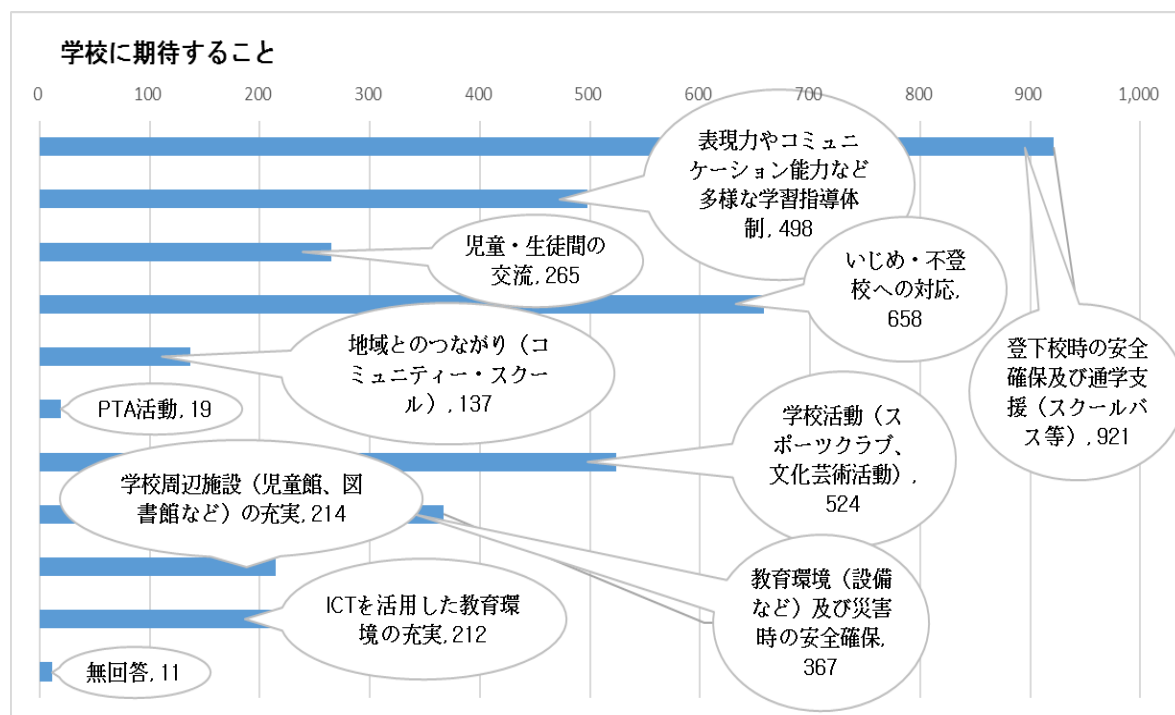
また、「『遠距離通学』にならないように配慮する。」が11.8%あり、子どもの通学時における心身の負担増に対する懸念や近年のさまざまな事件の影響もあると考えられます。

さらに、「『同じ地区の区域で、通学距離が分かれないう』ように配慮する。」は4.9%であり、現行の通学区域を維持するという意見もあります。

問 8 学校に期待することについて

学校の再編を進めるにあたり学校等に期待することについて、あなたの考え方に近いものに 3 つ〇をつけてください。その他を選択した場合はその理由を記入してください。

- (1) 登下校時の安全確保及び通学支援（スクールバス等）（全体 24.1%）
- (2) 表現力やコミュニケーション能力など多様な学習指導体制（全体 13.0%）
- (3) 児童・生徒間の交流（全体 6.9%）
- (4) いじめ・不登校への対応（全体 17.2%）
- (5) 地域とのつながり（コミュニティー・スクール）（全体 3.6%）
- (6) PTA 活動（全体 0.5%）
- (7) 学校活動（スポーツクラブ、文化芸術活動）の充実（全体 13.7%）
- (8) 教育環境（設備など）及び災害時の安全確保（全体 9.6%）
- (9) 学校周辺施設（児童館、図書館など）の充実（全体 5.6%）
- (10) ICT を活用した教育環境の充実（全体 5.5%）
- (11) その他、無回答（全体 0.3%）



学校に期待することは、「登下校時の安全確保及び通学支援（スクールバス等）」が 24.1%で最も多く、次いで「いじめ・不登校への対応」が 17.2%、「学校活動（スポーツクラブ、文化芸術活動）の充実」が 13.7%となっています。

児童・生徒の安全の確保とともに、現状における教育課題への関心の高さがうかがわれます。

設問以外のご意見について

【学区について】

- ・六戸高校跡地を資源として有効活用し、小・中学校を近くに移した方がいい。
- ・北方に一校、南方面に一校の小中一貫校としたい。
- ・閉校予定の六戸高校校舎を有効活用すべき。総合教育施設として利用しては？
- ・町の学校全体を統合し一定人数のクラスを確保すべき。人数が少ないと交流・勉強において偏りが出ると思う。
- ・小松ヶ丘に小学校が建てば大半の児童が徒歩で通学でき、スクールバス不要。
- ・小松ヶ丘から通学距離がさらに延びると、町外の学校を選択する人が増えるのではないか。
- ・地域からこれ以上学校が減るのは心苦しい。
- ・地区間の交通手段を充実させ、学区にこだわらず町内自由に学校を選べるようにすると選択肢が増える。
- ・せっかく学区を超えたスポーツクラブをやっているのに、中学校でバラバラになるのは、もったいない。

【学級編成・部活動・小中一貫教育等について】

- ・社会性を養うためにも、ある一定以上の人数で生活・教育した方がいい。
- ・1学年でクラスの異動がある方が、いじめ・不登校など子供のためになる。
- ・たくさんの友達や人に触れ、豊かな人間関係、社会性や協調性を学んで欲しい。
- ・町内の学校は部活の種類が少なく、町外の学校に通わせる人もいるので、いろいろな選択ができる工夫をした方がいい。
- ・今の中学校の部活動は、特に団体種目になるが、子供の数からチームを組めないで、中学校をまとめて活動できるようにして欲しい。
- ・児童・生徒数が少なすぎると学校行事が楽しくない。
- ・小中一環教育とする場合は、いじめ・不登校が発生した場合の対応を充分検討したうえで実施してもらいたい。
- ・今の六戸小と六戸中では顔ぶれがずっと変わらず、人間関係をリセットできない。
- ・生徒の分散配置によるオンライン授業の検討が必要。
- ・小中一貫校にすると小学校低学年が施設の利用などで不利益となることが考えられる。
- ・小中一貫校で多くの人間関係が構築できる一方、中学生の問題に小学生が巻き込まれるケースも考えられるので配慮が必要と思われる。
- ・コロナウイルス感染防止のため、密にならない学校をつくって欲しい。

【通学(スクールバス)について】

- ・学校の集約は仕方がないが、できるだけ徒歩や自転車で登校できる環境の方が、地域の人たちとの挨拶やふれあいを通じて社会性が育つので良いと思う。
- ・部活動に対応した時間・回数(休日や長期休業中を含めて)のスクールバスを希望する。
- ・通学が子ども達の負担にならないように、しっかりとした教育をして欲しい。